



## 恭賀新春



新年明けましておめでとうございます。皆様にはご健勝にて新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

半年振りの「かわかみ通信臨時号」を新年に発行できることになり、ほっとすると共に大変嬉しく思っています。というのは、昨年後半は腰痛が再発し、目標としていた場所を歩けなかったからです。11月中旬頃には腰痛も軽快しました。しかし、外はミズレ、少し高いところを歩くのはあきらめざるを得ない状況になってしまいました。

とはいえ、どこか歩かないと臨時号が発行できません。今回はそれ故、平地を歩いた模様をレポートしていただくことになりました。

ところで、あと5年後には敦賀に新幹線がやってきます。しかし、今のままでは敦賀はただ通過するだけの街になってしまいそうです。そうならないようにする為には、ただただ行政任せではダメなのではないかと思っています。県・市も色々計画しているようですが、小さなことでも自分に何か出来ることがないかということで、今年は敦賀の歴史に注目し、まずは苦しくなく、楽しみながら歩ける道を探してみようと考えています。そして、多くの市内外の方々にも歩いてもらい、敦賀の魅力の発見をしていただければと思っています。(たまには少し苦しい山のコースにもチャレンジ!)

一つは敦賀駅を起点にして、面白い、興味深いなど、歴史的に意味のあるところをめぐって歩くコースがいくつか出来れば良いと考えています。また皆様方から様々な情報を教えていただければ幸いです。

今回は敦賀港線をたどるコースです。詳しくは裏面の「ヨタヨタ歩きの奮闘記」をご覧ください。

氣比神宮の大鳥居も美しく塗り替えられました。皆

様も初詣は済まされたでしょうか。今年はまた、氣比神宮＝氣比社＋八幡社では(?)という、私の直観を少し深めたいと思っています。その為今、対馬について勉強しています。対馬には地名だけでも赤崎、糠浦(ぬかうら)、スス、志賀、朽木、瀬田、和爾(わに)など、私たちの近くにあるものと同名の地名があります。問題の八幡社も、かの地には興味深い逸話が残されているものがあります。いずれご紹介したいと思います。

川上医院 院長 川上 究



『古事記』の建国神話には、最初に生まれた島々(「大八洲」)の1つとして「津島」と記されている。『日本書紀』の国産み神話のなかには「対馬洲」「対馬島」の表記で登場する。

伊邪那岐(イザナギ)・伊邪那美(イザナミ)の二柱の神は淡路、四国、隠岐、九州、壱岐、対馬、佐渡、本州の順で国産みがなされた。

Qちゃんに行く

# よたよたすきの

## 奮闘記

### 第二弾

つるがこうえき

## 「敦賀港駅の巻」

久しぶりの「ヨタヨタ歩き」。12月10日午前10時敦賀駅集合。12月にしてはまずまずの天気。でもやっぱり寒い。

「さあ何処へ行くこう？」

鉄道といえば、大正から昭和初期にかけて敦賀では欧亜国際連絡列車が走っていた。明治45年6月15日、新橋ー金ヶ崎間に直通列車が運行。これはウラジオストックに船で經由し、シベリア鉄道によってパリ・ロンドンまで行けたのである。「よっしゃ、港の金ヶ崎駅まで行くこう」と決定。

華やかかなりし往時を偲び「出発進行」。(ただし徒歩)

今回はオッサン3人が行く奮闘記「敦賀港駅編」のはじまりはじまり々々。

まず、駅前の「都怒我阿羅斯等(ツヌガアラシト)像」前で出発記念撮影。構内の線



オッサン3人。ツヌガ君の前で出発式



構内の線路で、途切れている箇所が。これが金ヶ崎線か？

路を覗くと、何本ものレールが走る。「このうちのどれかが、金ヶ崎へ行つとったんやろな」「どうも、一番端っこのこのレールやで」  
少し線路に沿って歩いてみる。見るとレールが途中で切れている。

「これや！」 現在廢線にな

っている敦賀港線に違いない。

構内のあちこちで工事をしている。これは新幹線の橋脚を造っているのか、ここを新幹線が通つているところを想像してみる。

線路に沿って歩を進める。やがて、よく通る舞崎の踏み切り。ここは自動車は一旦停止しなくてもよくなった。舞崎を後に金ヶ崎に向う。明治15年3月15日金ヶ崎駅として開業。平成21年4月1日の廢線まで、この線路の上を多くの蒸気機関車、後半は気動車が行き交っていたのだから。

角鹿町に入ると、左手に角鹿中学校、右手に浄水場。そこを過ぎると天筒の踏み切り、ここからは金ヶ崎。線路の上を国道8号線の高架が走



永蔵寺下にある「泉のおしょうず」コンコンと清水が湧きだしている。

っている。そこを過ぎると右手に「泉のおしょうず」がある。ちよつと寄つてみる。清水がコンコンと湧いている。女性が一人タンクに水を汲んでいる。聞くと、飲み水に使うとか。なんか体にエエんかな？

金ヶ崎駅の構内に着くと、その当時賑わっていたということが想像できないくらいひっそりと静まり返っている。県はここに新幹線が来るまで



大正時代の敦賀港駅を始め、4棟の建物が復元される。

に大正時代の建物、敦賀港駅、大和田回漕部、税関旅具検査所、ロシア義勇艦隊の4棟を再現しようとしている。東京の人が新幹線に乗って再現された新しい大正時代の建物を見に来るのだろうか。この所はリトアニアから逃れてきたユダヤ難民が初めて自由の地を踏んだ場所である。地元少年が難民にリンゴを差し出したことが知られる。その場

に当時の建物を復元するより、もてなす心を復元するこのほうが優先するべきではないだろうか。老婆心までに。



ユダヤ難民が敦賀の地に降り立った場所。

かくして今回の「敦賀港駅散歩」の終了。ちよつと博物館で敦賀発展に寄与した大和田家のテーマ展が開催されている。敦賀の礎を築いた豪商の一人、大和田莊七の家系の資料が展示してある。

「ちよつと寄つていくか？」博物館を見学して、外に出ると、ちよつとどお昼時。近くの『丸仁』で腹を満たす。お腹も頭も満足で有意義な歴史散歩の一日だった。

(河)

【発行】平成30年1月5日(金) かわかみ通信 Vol.17

(新春特別号)

医療法人 川上医院

福井県敦賀市松島町1-39

TEL: 0770-22-0977